

# 猿投山 ハイキング 記録

実施日 平成 28 年5月2日(月) 晴

今年、72歳になり、身体の衰えを痛感する今日この頃である。現在の体力がどの位かを試してみたくなった。そのために選んだのが登山である。

学生時代に、富士山、後立山、槍ヶ岳に登ったが、それ以来、登山の経験はない。それも、ずぶの素人が天候に恵まれた結果、成功しただけなので、今さら本格的な山は無理である。

近くの猿投山が手頃な登山コース、ハイキングコースとなっていることを知った。

猿投山は、瀬戸市と豊田市との境にあり、登り口は雲興寺(瀬戸市白坂町)と、猿投神社(豊田市猿投町)の2ルートがある。ルートの一部は、東海自然歩道となっており、整備されている。また、登山口には、登山者用の無料駐車場が用意されており、便利である。

朝8時頃、猿投神社に到着し、登山の安全を祈願した後、登山者用駐車場へ車を停める。登山者用の駐車場は、猿投神社から少し奥に入ったところである。既に満杯に近かった。ナンバーを見ると、豊田、岡崎、三河が多いが、中には名古屋、岐阜などもある。帰りを見ると、駐車場に入らなかった車が道路脇にビッシリ停めてあった。猿投山登山の人気の高さがわかる。



8時20分、軽く準備体操をしてから駐車場を出発した。両側に樹木の茂った舗装道路を行くと、かたわらに水神さまの祠があった。少し傾いている。

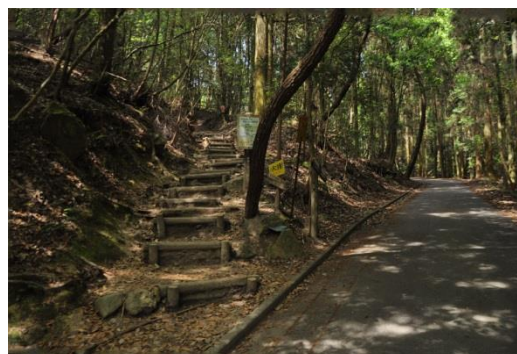


さらに進むと、鮮やかな赤い水車がある。この付近は陶磁器に適した土が豊富で、昔、ふるいにかけて土を水車に入れ、水を加えて2昼夜回転させていた。中に入っている種石によって押しつぶされて泥状になる。これを乾燥させて瀬戸に送り、焼き物にしていた。この水車を復元したもので、トロミル水車と呼ばれている。



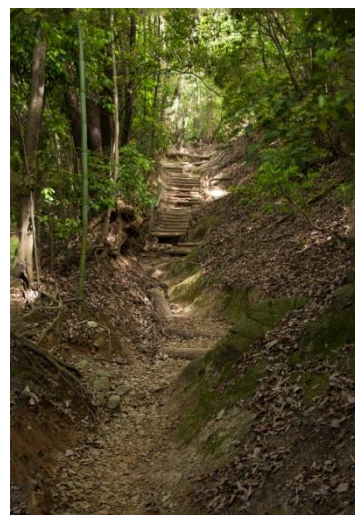
アスファルト舗装の道でも、勾配があって、平地を歩くようには進めない。それでも、旧跡を見たり、樹木の間を歩いたりすれば、普段のせわしない生活を忘れ、清々しい気持ちになる。途中、「お倉岩」という大きな岩が寝そべっている。倉庫の屋根の形からついた名前か、または馬の鞍からきた名前なのか。

お倉岩を過ぎると、すぐに「東海自然歩道」登り口の階段が見える。この階段を5~6段登ったところに、大きな杉の木が立っている。「御門杉」と呼ばれている。8時45分、いよいよ山登りの開始である。





階段が長く続き、結構苦しかった。少し休憩したいなと思うところに、なだらかな山道になり、ホッと一息つくことができた。



鉄製の橋も架けられており、整備が行き届いている。

私が登り初めたところに、下りてくる人とすれ違った。それも結構な数である。後から聞くと、暗いうちに登って、上で夜明けを迎えるのだという。

また、走って登る人も多い。走る人は、朝から昼過ぎまで、たくさんの人とすれ違った。50~60歳位の人もある。元気なだけでなく、足腰や膝が相当頑丈に鍛えてあるのだろう。感心する。

9時15分、休憩所(緊急避難小屋)に到着。休憩所で食事をとっている人もいた。まわりは樹木がぎっしりで見晴らしはない。10分ほど休んで出発。



9時35分、岩場の展望台に到着。この展望台は、本来のルートから外れているが、見晴らしがよいのでほとんど人がこちらを通る。大きな岩がごろごろしており、木が生えないので見晴らしがよい。団地、ドーム、高速道路などが眼下にあり、遠くに山々がかすんでいる。



頂上では、日の出が見えない。この岩場は、日の出の方角に開けているので、ご来光はここで迎えるのだという。10分ほど、景色を堪能してから出発。

すぐに三叉路となり、左は西の宮を通るルートで「自然観察路」と呼ばれている。右は「東海自然歩道」で東の宮直通ルート。今日の登りは右を通り、下りは西の宮ルートを通ることにする。

三叉路から5分も登るとアスファルト道路にでる。ここが東の宮への参道入口で鳥居があり、その

横にはトイレもある。駐車場から上ではここが唯一のトイレである。トイレに入ったが、大便器は紙の山となっており、使用できる状態ではなかった。小便器はあまりきれいとは言えないが、使用可能な状態。足でペダルを踏むと水が流れる仕組みとなっている。少しずつ水が出た。帰りはここを通らなかった。



9時55分、鳥居をくぐって、東の宮へ出発。なだらかなところもあれば、急な階段もある。「ツキノワグマ出没注意」とか「ハチ被害多発」などの注意標識があちこちに立っている。

太くてまっすぐな杉の木とシイの木があった。枝は先端部だけで、途中には全くないので、建築用に用いれば良質な木材になるのだろう。まわりの木は若葉が透き通り、清々しかった。

10時15分、東の宮へ到着。

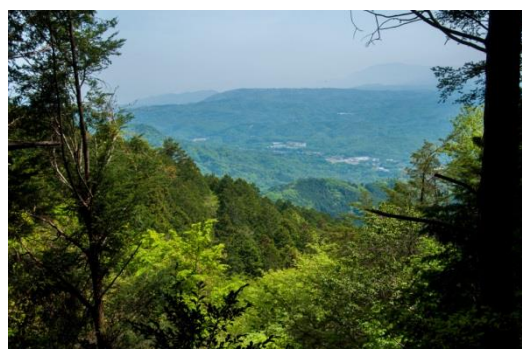


本殿の前に、大きな建物の跡が残っており、基礎の大きな石がある。立派な建物だったのであろう。偉大な先人の力と、実際に建て方に加わった作業員たちの苦勞が偲ばれる。

本殿に参拝した後、山頂に向かう。猿投山で最も標高の高いところは、この東の宮(標高632m)であるが、一等三角点を設けてある場所(標高629m)が山頂とされている。

東の宮の左手にある鉄製階段を下って、山頂へ向かう。

途中、林の切れ目から見晴らすことのできる場所があり、御嶽山が見えると書いてあった。しかし、御嶽山が見える日は少なく、よほど空気の澄んでいるときだけだと、他の登山者が言っていた。



10時32分、カエル石に到着。口と目をマジックインクのようなもので着色してあるが、なければカエルと想像することは難しい。昔の人の想像力の豊かさに脱帽。



10時45分、今日の目的地である、猿投山の山頂へ到着。大勢の登山者、ランナーたちが食事したり、休憩したりしている。まだ早い。私も昼食休憩をすることにした。

山頂には一等三角点が設置されている。一等三角点は、40km間隔で正三角形に設置され、日本全国にはおよそ1千箇所ある。その一つが猿投山に設けられている。この地点が、豊田市と瀬戸市との境となっている。

なお、二等三角点は、8km間隔でおよそ5千箇所設置され、富士山にあるのも二等三角点である。

11時25分、私より早くからいる人でもまだゆっくり休んでいるが、私は休憩をすませて、下山にとりかかることにした。

東の宮までは、同じルートを引き返し、その先の三叉路で右へ折れて西の宮へ向かう。

このルートは大変厳しいルートだった。木の根が地表に出ていたり、砂岩の上に風化した砂粒が積もっていたり、傾斜の急な坂や階段があったりして、一步一步気をつけて歩かないと転倒、転落する危険があった。走る人も、ここだけはゆっくり歩いた方がよいと思う。



それでも、鳥の巣箱が架けてあるのを発見して、楽しみもあった。



12時5分、御船石に到着。大きな岩が二つ並んでいる。登って遠くを眺めたが、眺望はあまりよくない。

さらに進むと石垣があり、柵で囲まれており、宮内庁の標識がある。景行天皇の皇子大碓命の墓所であることを、後で知った。



12時15分、墓所から急な階段を下って、西の宮に到着。造りは東の宮とほとんど同じ。本殿の前に建物跡があることも同じであった。

西の宮から下ったところにアスファルト舗装があり、ここを左に折れれば、東の宮の鳥居とトイレに出る。アスファルト舗装を横断して、自然観察路を通り、朝通った、東海自然歩道に合流した。合流点からは、朝通ったルートを引き返すことになる。

岩場の展望台は合流点から近いが、再びここへ寄って、景色を楽しんだ。

14時00分、駐車場へ到着。今日のハイキングの予定はすべて終わった。多くの登山者がいて、いろいろ尋ねながら登ったので、安心だったし、天気にも恵まれたので、気持ちよく登ることができた。



猿投山を歩いていると、四国の遍路道を思い出した。木陰の坂道, 階段, 木の根っこなど, 足を取られそうなところがたくさんあるが, このような思い出が懐かしく感じられた。

猿投山は見所がたくさんあるので, その都度, 5~10 分ほど身体を休むことになり, 疲れはさほど感じなかった。

翌日, 翌々日に足の疲れが出たり, 筋肉疲労で痛んだりすることもなかった。当初の目的である, 体力判定では, 一応合格点をもらえそうである。

この近くに住んでいる人は, 週に 2~3 回この山に登るといふ。お金もかからないので, 日課としているようだ。

私も身体が元気な間に, 猿投山のほか, この近くの東海自然歩道に挑戦してみようと思う。

